

# 2023 年度

一般選抜Ⅱ期

## 選択科目

試験時間 9:30 ~ 11:30 (120分)

1. 国語	14 ページ
2. 英語	7 ページ
3. 数学	4 ページ

### 注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②出願時に選択した科目を受験すること。
- ③問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ④試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ⑤試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

## 健康科学大学

健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学コース 作業療法学コース  
人間コミュニケーション学科  
看護学部 看護学科

# 1. 国語

※国語の問題は、全14ページです。

## 国語

1

次の文章は村上陽一郎の論説『安全と安心の科学』の一節である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

こうして見たとき、私たちは、自然災害や(ア)シンコウ物のもたらす危険だけでなく、社会自体のなかに含まれている不安の原因をも背負い込んで生きているということになります。

そのことは、結局先ほど後回しにした問題、「安全」と「危険」、「安心」と「不安」という構図のなかにある区別や意味を少しはつきりさせなければならぬところへ、私達を誘います。言い換えれば、危険が除かれ安全になったからと言って、必ずしも安心は得られない、ということにもなります。例えば、先ほど触れた「杞憂」という概念は、まさしくこの点を衝いていますでしょう。誰も天が崩れ落ちるという「危険」の可能性をまともに考えません。それでも、問題の杞の人の「不安」を取り除くことはできないのでしよう。

日本の現場で、このことが最も(イ)ケンチヨに表れているのが原子力の世界ではないでしょうか。原子力発電の世界では、日本の現場のサイトで死者は一人も出していません。もつともサイトでの死者が(ウ)カイクである、というのは間違いです。例えば二〇〇〇年八月には北海道電力の泊発電所で、作業員の方が亡くなっています。しかし、これは定期点検中に、あるタンク内で清掃作業に従事していた作業員が梯子から転落して助からなかったケースで、もちろんこうした事故をも防ぐ努力は積み重ねられなければなりません。こうした事故は原子力発電所以外のあらゆるサイトで起こり得ることで、原子力産業特有のものではありません。二〇〇四年に起こった美浜事故(注1)もまた同様です。

しかし、JCOの事故(注2)で亡くなった方があるではないか、と言われる方もいるでしょう。たしかにあの事例は原子力産業に特有の放射線による死者ですが、発電所の現場で発生したものではありませんでした。つまり、A 原子力発電の現場は、他のさまざまな現場に比べても、客観的な安全性においては優れていることはあつても、決して「より危険な」ものではありません。しかし、人々が原子力発電に抱く漠然たる不安は、どうしても払拭されません。この点は章を改めて論じることになります。

安全や危険というのは、ある意味では科学の方法で数量的に評価できる世界です。定量的な方法で表現することができるものです。一例を挙げれば、経済産業省の原子力安全・保安院が、現在の原子力関連施設に航空機が事故で飛び込んで致命的な結果をもたらす確率を計算して発表したことがあります。一〇〇万年に一回でしたか、もう一桁小さかったか、とにかく、そうした確率を計算して示すことができるのが「リスク」であります。それを裏返せば、それだけの安全が確保されている、と言い換えてもよいでしょう。しかし、そうした数値が人々に「安心」を与えらるか、と言え、そうはなりません。

そのことは一方ではむしろ合理的です。それはこうしたリスクの評価は、あとで詳しく述べますが確率的に扱われることと関連しています。例えば、天気予報では降水確率という数値が大事な役割をしています。何々地方の午後三時から六時までに雨の降る確率は四〇パーセントです、

といった予報が行われます。さて私がその何々地方の人間で、しかも問題のその時間に外出しなければならない、とします。私はどうすればよいのでしょうか。四〇パーセントだけ傘を持っていく、ということはできません。私にとっては、傘は持つていくか、持つていかないか、そのどちらか、つまりIもしくはOという判断であつて、統計的な確率の数値は何の意味もないのです。

統計とか確率的な方法に意味があるのは、いわゆる「アンサンブル」つまり多くの事象の集まりに関してであつて、単一の事象に関しては、意味をもたないと考えざるを得ません。もちろん心理的な意味はあるでしょう。慎重な精神的傾向をもった人が、四〇パーセントという数値を聞けば、では傘を持つていこう、という心理になることは十分に考えられます。一方大まかな心理の持ち主なら、傘は持たないとも考えられます。

このことはいずれ医療の問題を取り扱うときに再論する機会があると思いますが、医療ではきわめて深刻です。医師が診断し、治療方針を決定するとき、医師の念頭にあるのは、明確に過去の事象（医療の世界では「症例」ということになります）群であり、選択肢となる治療法のそれぞれについての、成功例と失敗例の統計です。そのなかで、最も成功する確率の高い選択肢を選ぶのが、医師の責任でしょう。そのためにも、事象の母集団の数は多ければ多いほど、確率計算の信憑性も高くなるはずで

しかし、患者にとっては、過去の成功確率は無意味でしょう。自分に対しては、それは成功するか、しないかのどちらかでしかないのです。仮に医師の知る限りの知識で、過去に一〇〇例のすべて成功例であつたとしても、なお、この自分に（**工**）テキヨウされたときに、それが成功例になるかどうかは、判りませんし、成功しない例になってしまうことは、過去の一〇〇パーセントの数値にかかわらず、必ず可能性としては残ることになります。したがつて、**B** 患者の立場では、不安が解消されないことには合理的な理由がある、と言わなければなりません。

安全の追求、危険の予知、評価、それに基づく危険除去の方法、こうしたことは、いわゆるリスク・マネジメントという分野が関わつてきたことであり、それは人間工学などの分野と手を結びながら、それなりに大きな成果を収めてきました。今後も、そうした事態は変わらないでしょう。変わらないどころか、日本では、まだそうした分野での徹底した事例集め、分析、評価、対応策の提案というような流れが、なかなか完全に徹底した形で普及しているとは言い難い状況が目につきます。

その意味では、「安全—危険」という枠組みのなかで、しなければならないことはまだ沢山あります。けれども、それを達成するだけでは、現代の不安を解消することはできないでしょう。不安は、その反対概念である安心も含めて、定量的な扱いから大きくはみ出る世界です。不安を数値で表すことはできませんし、安心の度合いを数値化することも困難です。

実際、現代社会の人々の問題は、すでに欲求の充足からはずれ始めています。かつては、欲求の充足が、人々の心理の中心を占めてきました。今でも「欲しい」もの、「欲しい」ことを探し求める営みが終わったわけではありますまい。その上、経済活動の側から見れば、人々の欲求、つまり不足の感覚は、無理をしてでも造り出すべきものと考えられてきました。日本を代表する自動車産業のトップが、需要とは見つけるものではなく、造り出すものだ、と述べたのは、まさしくそうした感覚の発露であつたでしょう。

しかし、今人々の心の中心を捉えかけているのは、もはや「不足」ではなくて、「不安」なのではないでしょうか。不足には満足が対応します。そして、不足と満足は、どちらも心理的な側面の強い概念であるにもかかわらず、ある程度数値化が可能なのです。満足度はしばしば統計的データのなかに登場しますし、不足もまた、色々なマーケット・リサーチなどで、定量的なデータとして扱われます。しかし、不安と安心とは、そうした扱いの上に乗切らない世界でもあります。

私の（オ）テイシヨウする「安全学」とは、そうした意味で、**C**「安全―危険」の軸と、「安心―不安」の軸と「満足―不足」というような軸を、総合的に眺めて、問題の解決を図ろうとする試みと理解していただければ幸いです。それこそ「満足」のいくような結果が得られるか否か、いささか心もとない「不安」もあるのですが、それを読者の皆さんと考えていくことにしたいのです。

（本文中の小見出しを省略した。）

#### 注

（注1）美浜事故 ―― 二〇〇四年に関西電力美浜発電所の原子力発電機の配管が突然破裂し、冷却水が高温の蒸気として周囲に広がった事故。五名の死亡者、六名の重軽傷者が出た。死因は全身火傷およびショックによる心肺停止であった。

（注2）JCOの事故 ―― 一九九九年に茨城県東海村にある株式会社シエー・シー・オーの核燃料加工施設で発生した原子力事故。多量の放射線を浴びた作業員三名の内、二名が死亡、一名が重症となった。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

(ア) ジンコウ

- ① 日本のジンコウ減少率が高い
- ② 大学のコウギに出席する
- ③ 不当な判断にコウギする
- ④ メイコウが作った陶器
- ⑤ 取引先と商談をコウシヨウする

(イ) ケンチヨ

- ① 体育の授業をケンガクする
- ② 実験でケンビキヨウを使う
- ③ ケンコウ診断を受ける
- ④ ケンジヨウ語を使いこなす
- ⑤ 課題をケントウする

(ウ) カイム

- ① 構造カイカクが行われる
- ② フカイな出来事
- ③ チユウカイ手数料を払う
- ④ カイガ教室に行く
- ⑤ 免許カイデンの腕前

(エ) テキヨウ

- ① カイテキな室温を保つ
- ② キヨウテキと対戦する
- ③ 電車がケイテキを鳴らす
- ④ コップからスイテキがこぼれる
- ⑤ 専門家がテキカクな指摘をする

(オ) テイシヨウ

- ① 三角形の合同をシヨウメイする
- ② 左右タイシヨウの図形を書く
- ③ ガッシヨウ会で金賞を受賞する
- ④ 優勝してシヨウジヨウをもらう
- ⑤ シヨウソウ感にとられる

問2 傍線部A「原子力発電の現場は、他のさまざまな現場に比べても、客観的な安全性においては優れていることはあっても、決して『より危険な』ものではありません。」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 日本の現場では、原子力発電所内で、死者は一人も出ていないから。
- ② 日本の現場では、原子力発電所内で、死者は出ているが、それは誤差の範囲と見なせるから。
- ③ 日本の現場では、原子力発電所外で、原子力産業特有の死者は一人も出していないから。
- ④ 日本の現場では、原子力発電所内で、作業員が亡くなっているが、それは偶然の事故に過ぎないから。
- ⑤ 日本の現場では、原子力発電所内で、原子力産業特有の死者は一人も出していないから。

問3 傍線部B「患者の立場では、不安が解消されないことには合理的な理由がある」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 過去の成功率が分かっているとしても、統計的な確率の数値は何の意味もないから。
- ② 過去の成功率が100パーセントであったとしても、患者が成功することは保証されないから。
- ③ 過去の成功率が100パーセントであったとしても、慎重な精神的傾向を持った人は安心しないから。
- ④ 患者の失敗率は「リスク」として計算することができるが、それが0になることはないから。
- ⑤ 患者の失敗率は「リスク」として計算することができるが、確率には誤差がつきものだから。

問4 傍線部C『『安全―危険』の軸と『安心―不安』の軸と『満足―不足』というような軸』とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「満足―不足」の軸と「安心―不安」の軸を比較したときに、どちらも数値化できることが共通点であり、心理的な側面が強いかどうかの違いである。
- ② 「満足―不足」の軸と「安心―不安」の軸を比較したときに、共通点はなく、数値化ができるかどうかの違いである。
- ③ 「安全―危険」の軸と「安心―不安」の軸を比較したときに、心理的な側面が強いことが共通点であり、数値化ができるかどうかの違いである。
- ④ 「安全―危険」の軸と「満足―不足」の軸を比較したときに、共通点はなく、数値化ができるかどうかの違いである。
- ⑤ 「安全―危険」の軸と「満足―不足」の軸を比較したときに、どちらも数値化できることが共通点であり、心理的な側面が強いかどうかの違いである。

問5 本文では「安全」と「安心」の違いをどのように説明しているか。その内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「安全」と「安心」は同義の意味である。
- ② 「安全」は確率的に表現されるが、「安心」は1か0で表現される。
- ③ 「安全」は数値化できるが、「安心」は数値化できない。
- ④ 「安全」は主観的なものだが、「安心」は客観的なものである。
- ⑤ 「安全」が得られれば、「安心」も得られる。

問6 本文の内容と合致する記述を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 不安が除かれ安心になったからといって必ずしも安全は得られない。
- ② 統計とか確率は心理的な側面や行動に影響は与えない。
- ③ リスク・マネジメントをすることで不安を解消することができる。
- ④ 現代社会の人々において、欲求の充足を探し求める営みの重要性は変わらない。
- ⑤ 不安を取り扱うためには、定量的な計測が重要である。



## 2

次の文章は鷲田清一の『わかりやすいはわかりにくい?』の一節である。これを読んで、後の問い（問1〜6）に答えよ。

わたしたちはあれこれひとりで思い悩み、答えがどうにも出ないとき、その思い煩いをだれか親しいひとにちよつとでもわかつてほしいと願う。「そうだ、そうだね」と他人にならずいても、相づちを打ってもらいたいと願う。他人に自分の思いを分かちもってもらふことで、少しでもいいからいまよりは楽になりたいと思う。

ひとに自分の鬱<sup>ふさ</sup>ぎについて聴いてもらふと、たしかにその効果はある。聴いてもらうだけでちよつと楽になったというのは、だれもがしばしば経験することである。だから具体的に何ができるわけでもなく、せめてじつくり聴いてあげる、そして同じ思いに浸るといふかたちで、そのひとのサポートをしてあげようとは考える。いわゆる「共感」や「同情」である。

英語に「シンパシー」(sympathy)という言葉がある。シンパシーはギリシヤ語の接頭辞 syn- と、同じくギリシヤ語の pathos を組み合わせた言葉で、苦痛や悲しみをともにするという意味である。symphony が音響を合わせるという意味で「交響曲」と訳され、synthesis が異なる考えを合わせるという意味で「総合」と訳されるのと同じように、sympathy は「共感」や「同情」と訳される。

けれども、W「共感」とか「同情」というのは、はたして異なる思いを一つに溶け合わせるといふことなのだろうか。「あなたの気持ち、わかります」と言うのは、「わたしはあなたと同じ気持ちです」「わたしはあなたに合意します」といふように「思い」や「考え」を共有すること、合一化することと同じだろうか。

直接かかわらないで、ただじつと見ている、あるいは何もしないでただ横にいるということが、ポジティブな力になることがある。はじめての幼稚園。母親にじつと見守られている、関心をもたれていることで、はじめてひとりで新しい仲間の輪のなかに入つてゆけたという思い出はだれにもあるだろう。見守るとともに、聴くということにも、何もしないことが他人を深く支える、そういう力がある。じつさい、ひとは自分の落ち込んだ気持ちを、ひとに聴いてもらえると楽になる。他人に話したら、理解してもらえなくても、聴いてもらうだけでずいぶん楽になれる。

だれかにほんとうに聴いてもらいたくなるのは、鬱<sup>ふさ</sup>いでいるとき、でも自分でも何を訴えたいのかよくわからないときである。しかし聴くというのはなかなかむずかしいことである。何か思いつめているときには、まず「言つたつてわかるはずがない」と口が重くなるが、「ふん、ふん」とうなずかれると、「そんなにかんたんにわかられてたまるか」という反発が先に立つ。それが感染して、聴くほうも「わかるんだけどわかりたくない」と(ア)意固<sup>いこ</sup>地にもなる。聴こうとするといやがるから、逆に鼻歌うたいながら用事でもしつゝ聴くとはなしに聴く、くらの感じではじめて口を開いてもらえるとということもある。

しかし、聴くことがもつとむずかしいのは、聴いても言葉を返しようがないとあらかじめわかっているときである。重篤な病気になった友人、家族を失つた被災者、子どもを失つた両親、ホスピスの患者さん、くり返し病に冒される知人……。このひとたちの前に立つたとき、とつさにど

う声をかけていいのかわからず、怯おそんでしまう。まさに聴くことしかできないのである。けれども、ひたすら聴くということ、そのことには大きな意味がこもっている。

このような場合にじつと聴くのがむずかしいのには、いくつか理由がある。一つは、苦しみや鬱ふさぎの理由を問うても答えがないことは、話す本人がわかっているから。なぜこのわたしばかりが病に冒されるのか、こんな状態でも生きつづけることは死ぬことより大事なのか……と問いただしても、だれも答えを返せないに決まっている。

第二に、ひとはほんとうに苦しいときには話さないものである。「言っただつてわかってもらえるはずがない」。それでもようやく口を開いても、一言一言が相手にたしかに届いているか確認しながらしか話せないで、どうしても(イ)とつとつとした断片的な語りになってしまう。

第三に、迎え入れられるという確信のないところでは、ひとは他人に言葉をあずけないものだ。ほんとうはそのことは考えたくない、忘れていたのに、他人に語ることで苦しみをわざわざ二重にすることはない。

そして最後に、とくに家族の場合、自分が漏らす一言一言を身内は聞き流すことができず、それらに過剰に反応してしまう。「そんなこと思っていたのか。こつちの身にもなつてくれ」と返され、そして「言わなきゃよかった」と二度と口を開かなくなる。

聴くというのは、それほどにむずかしいことである。が、×それでもひたすら聴かねばならない。最後まで聴き切らねばならない。聴くだけ、言葉を受けとめるだけということが意味をもつのは、いったいどうしてか。

苦しみや鬱ふさぎのなかに溺おぼれてしまっているひとが、それでもそれについて語るためには自分の苦しみや鬱ふさぎについて、どんなきつかけ、どんな経過でこんな苦しみや鬱ふさぎに襲おそわれることになつたのか、その理由と考えられるものは何か、いまはどんな状態か、というふうに、苦しみや鬱ふさぎから身を引き剥はがし、ことがらを時系列に並べ換え、整理して語らねばならない。このように自分の苦しみや鬱ふさぎにある距離をとり、それを対象化するなかで、それらとの関係が変わるということがここではとりわけ重要なのである。つまり、苦しみや鬱ふさぎを当初あつたのとは別の地平へと移し変えるところに、他者を前におのれについて語るこの意味はある。語るということは、相手に回答をもらうということではない。Y見えない自分の姿を映すために、その鏡の役を相手にしてもらふことであるのだ。

が、鏡であるべき聴く者は、話の中身が重いし、しかも相手からなかなか言葉が漏れてこないで、その緊迫になかなか耐えきれない。身を固くしてじりじりと待つだけで疲れはててしまう。そのうち待ちきれなくなつて、「あなたが言いたいのはこういうことじゃないの？」と誘い水を向ける。話すほうはその明快な語り口につい乗つてしまう。「わかってもらえた」と。が、これはじつはもつともまずい聴き方なのだ。なぜなら、語るこの意味は、語ることによつてみずからの閉塞から距離をとることにあるのに、そのチャンスを聴く側が横取りしてしまうからだ。これでは聴くことにならない。

だれかに聴いてもらおうとひとが重い口を開くのは、何を言つても受け容れてもらえる、留保をつけずに、反論もせず、とにかく言葉を受けとつてくれる、自分がそのまま受け容れてもらえる、そういう感触を確認できたときである。このとき、相手に見守られている、自分が相手

の関心の宛て先になっているということが大きな力になる。関心をもつひと、じっと待つてくれるひとの前ではじめて、ひとは口を開くのである。西洋のひとたちが関心のことをインタレストと呼ぶことには(ウ)含蓄がある。インタレストという語は、ラテン語のinter-esse、つまり相互的な存在であるということ(inter-being)からきているのだ。

歯科医院でよく、絵本を読んでとせがんでいる幼児を見かける。お母さんが読みはじめても、子どもの気は余所へ行っている。読み終えたらすぐにまた「もう一回」とおねだりする。けれども他の子どもがどんなオモチャをもっているか、どんな遊びをしているかが気になって、話はろくに聴いていない。なのに何度も「読んで、読んで」とくり返す。ここでは、話の中身より、母親の声が自分のほうへ向いていることの確認が大事なのだろう。物語の筋よりも、自分が母親に語りかけられている状況、つまりは自分の存在がだれかの意識の宛て先になっていることが、子どもにとって何より重要なのだろう。

「時間がないので子どもの話をじっくり聴いてあげられない」と言うひとがいる。でも聴くことは片手間でもできる。ここは仕事をする時間、ここは料理をする時間、ここは家族で団欒の時間と区切らなくても、料理を作りながら、何かをしながら耳だけちよつとそちらに傾けて聴くということもできる。というかむしろ、ちゃんと聴いていないのかなというくらいのほうが、話すほうも話しやすい。真剣に聴かないほうがきちんと聴ける。日々の会話では、気が抜けた雑談のなかから何かが生まれるなどということもよくある。だからといっていい加減に聴いていればいいというわけでもなく、このひとはいま自分のためにここにいてくれるという感動があればいい。あなたのために早く帰ってきた、ほんの少しだけでもここにいて、この時間はあなたのためにとつてであると時間をプレゼントする。そういうことは、子どもは感じ取れる。そしてそういう関係さえあれば、子どもの口から言葉はおのずから漏れてくる。

(本文中の小見出しを省略した。)

問1 傍線部(ア)～(ウ)の表現の本文中の意味内容として最も適切なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

- (ア) 意固地
- ① 物事をどうでもよいと感じること
  - ② 他人の言うことを素直に受け入れること
  - ③ 他人の意見を聞いて怒りがこみ上げること
  - ④ 投げやりに行動すること
  - ⑤ 意地を張って頑固になること

- (イ) とつとつとした
- ① 口ごもる様子
  - ② 単純な様子
  - ③ すらすらとでてくる様子
  - ④ でこぼことしている様子
  - ⑤ 以前からずっと感じている様子

- (ウ) 含蓄
- ① 延々と語ること
  - ② 深い意味があること
  - ③ 別な意味があること
  - ④ 間接的に知らせること
  - ⑤ 考えが浅いこと

問2 傍線部W「『共感』とか『同情』というのは、はたして異なる思いを一つに溶け合わせるということなのだろうか」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「共感」や「同情」とは、悩んでいるひとの話を聞いたとき、そのひとの気持ちと同じでいるようなものだという意見に疑問を覚えている。
- ② 「共感」や「同情」とは、悩んでいるひとの話を聞いたとき、相づちさえ打てば悩みを解決することができるものだという意見に疑問を覚えている。
- ③ 「共感」や「同情」とは、悩んでいるひとの話を聞いたとき、そのひとへポジティブなサポートをすべきものだという意見に疑問を覚えている。
- ④ 「共感」や「同情」とは、悩んでいるひとの話を聞いたとき、「交響曲」をともに奏でるべきものだという意見に疑問を覚えている。
- ⑤ 「共感」や「同情」とは、悩んでいるひとの話を聞いたとき、自分自身も苦痛や悲しみ、怒りを感じなければならないという意見に疑問を覚えている。

問3 傍線部X「それでもひたすら聴かねばならない」とあるが、それはどのような理由によるものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

15

- ① じつと聴くことにはいくつかの理由によるむずかしさがあるが、悩んでいるひとの話を聴き「共感」や「同情」することを通して、そのひとを苦しみや鬱ぎからサポートすることができるため。
- ② じつと聴くことにはいくつかの理由によるむずかしさがあるが、ひとが苦しみや鬱ぎのなかに溺れてしまっているときは現状と距離をとることが重要なため、どんなに忙しくても話を聴くことが必須であるため。
- ③ じつと聴くことにはいくつかの理由によるむずかしさがあるが、悩んでいるひとは誰かに話を聴いてもらうことでしか現状から抜け出すことはできないため、周囲のひとは聴くことに徹する必要があるから。
- ④ じつと聴くことにはいくつかの理由によるむずかしさがあるが、悩んでいるひとの役に立つためには日頃から聴く練習を積む必要があるため、どんなに忙しくてもひとの話を最後まで聴くことが重要であるため。
- ⑤ じつと聴くことにはいくつかの理由によるむずかしさがあるが、苦しみや鬱ぎから抜け出るためには話を語り最後まで聴いてもらうことで自分の苦しみや鬱ぎを自分の外から距離をとってみることで見え方や感じ方が変わるため。

問4 傍線部Y「見えない自分の姿を映すために、その鏡の役を相手にしてもらおうことであるのだ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 自分の心の中は自分自身では見えないので、どのような悩みなのかを他者に聴いてもらい解釈及び説明してもらおうことで、自分の悩みについて具体的に理解できるということ。
- ② 自分の悩みを家族に話す際は注意が必要であり、身内である家族はその関係性から一言一言に過剰に反応してしまうため、家族の表情を鏡のようにとらえて反応を見ながら話の方向性を変えたり中断したりする工夫が必要だということ。
- ③ 自分の悩みを解決するためには他者にその理由や今の自分の気持ちなどを聴いてもらうことが最も有効であるが、自分では解決方法がよくわからないため、他者に自分役を依頼して感じたことを教えてもらうことがいいということ。
- ④ 自分の悩みを他者に語ることを通して自分の悩みについてきっかけや経過を整理することができるのは、他者が話をひたすら聴いてくれることで気づかなかった自分の状況を他者を通して理解することができるということ。
- ⑤ 苦しみや鬱ぎの最中にいるときは何について悩んでいるのか自分自身では理解できないため、話を聴いてくれる他者の表情を鏡のように見ながらヒントを得て自分自身で理解する必要があるということ。

問5 傍線部Z「そしてそういう関係さえあれば、子どもの口から言葉はおのずから漏れてくる」とあるが、どのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 子どもは大人に自分の悩みを話すことがなかなかできないため、母親が仕事や料理などに費やす時間を削ってでも子どものために時間をつくることで、ようやく自分から話し始めるものだという事。
- ② 子どもの頃は興味や関心が移りやすく母親が話しかけても聴いているかどうかよくわからない時があるため、時間を決めて母親が伝えたことを子どもが聴いているか言わせることが大事だという事。
- ③ 子どもは母親がきちんと話を聴ける状況でなくても、自分に関心を向けていてくれ、自分のために時間をとってくれているとわかることで自分から話し始めるものだという事。
- ④ 子どもにとってひとの話を聴く姿勢を教えることは重要であり、逆に聴いてもらえない体験をすることも一つの方法であることから、時には真剣に聴かないことも必要であるという事。
- ⑤ 子どもの話をしっかり聴く時間がないほどに忙しいときは、雑談から母子の信頼関係が生まれることも十分考えられるため、これまで以上に雑談の時間を見直してみることが必要だという事。

問6 筆者が言いたい主題はどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 

18
----

。

- ① ひとが思い悩んだとき話を聴いてもらうと楽になるが、話を聴くことは非常にむずかしい行為である。それでも誰かに聴いてもらうことに意味があるのは、悩みをどのように解決すればいいか答えを出してもらうことができるからだと筆者は言っている。
- ② ひとが思い悩んだとき話を聴いてもらうと楽になるのは、他者に何か答えを出してもらうからではない。他者に関心を向けてもらい受け容れてもらっていると感じられる状況下で語ることで自ずと自分の問題に向き合うことができると筆者は言っている。
- ③ ひとが思い悩んだとき話を聴いてもらうと楽になるのは、聴く側が同じような体験を積み重ねている場合が多いためである。同じような体験をしたからわかりあえるという聴く側の認識が重要だと筆者は言っている。
- ④ ひとが思い悩んだとき話を聴いてもらうと楽になるのは、聴く側がいかにもいい解決方法だと思って解決策を伝えても悩んでいるひと自身が自分にあっている方法だと認識しなければ無駄になるため、聴くことに徹するほうが有効であると筆者は言っている。
- ⑤ ひとが思い悩んだとき話を聴いてもらうだけで楽になるのは、「共感」や「同情」する能力が高いひとに聴いてもらった場合に限られるため、そのようなひとにただじっと側にいて見守ってもらうだけでも心が楽になると筆者は言っている。



※このページは空白

## 2. 英語

※英語の問題は、全7ページです。

# 英語

1

次の問い（問1～問5）の会話を完成させるために、( ) 内に入るのに最も適当なものを下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 A: I need to make 200 copies of this document before 3:00,  
but I don't have time.

B: I don't have much work today, so I can help you if you like.

A: Really? It's a lot of work, are you sure?

B: No problem, ( ).

1

① you're all set

③ it's water under the bridge

② you can count on me

④ it's time to shine

問2 A: I baked a cake, but it doesn't taste very good.

B: Really? It tasted fine when I made it. Did you follow the recipe?

A: Well, kind of. I didn't have any powdered sugar, so I had to  
use artificial sweetener instead.

B: Ah, well in that case you only have yourself to ( ).

2

① blame

③ reform

② persuade

④ manage

問3 A: How come you always start dancing whenever you hear that song?

B: ( )! It's just so catchy!

3

① I can't tell it

③ I can't catch it

② I can't make it

④ I can't help it

問4 A: I need to go to the bathroom, could you make sure no one takes my stuff?

B: Sure, I'll ( ).

4

① take notice

③ watch your step

② play it by ear

④ keep an eye on it



問9 This movie ranks  the top 10 movies that came out this year.  
① among                      ② between                      ③ on                      ④ throughout

問10 Our reservation at the hotel  not been confirmed yet.  
① is                      ② was                      ③ has                      ④ does

**3**

次の英文（問1～問5）の下線部①～④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし、番号で答えよ。

問1 ① Its an ② honor to finally meet you. ③ I've been a ④ fan for a long time.

問2 Each hamburger we make ① contains 180 ② grams of ③ meats ④ mixed with onions.

問3 I'm happy ① to report that ② your ③ well-qualified ④ to work at our company.

問4 The patient ① should quickly recover, ② although he ③ gets enough ④ rest.

問5 Large amounts of fish ① has ② been ③ seen ④ off the coast of the island.

**4**

次の問い（問1～問5）について、日本語の意味に合うようにそれぞれ下の①～⑤の語句を並べ替えて空所を補い、最も適当な文を完成させよ。（ただし、文頭に來るべき語も小文字で示してある。）解答は ～ に入るものの番号のみを答えよ。

問1 帰る前にすべてのドアと窓に鍵をかけてもらいたいです。  
I      all the doors and windows before you leave.  
① like                      ② to                      ③ you                      ④ lock                      ⑤ would

問2 プログラミングは、世間で言われているほど難しいものではありません。  
Programing is not as      is.  
① it                      ② say                      ③ difficult                      ④ people                      ⑤ as

問3 テニスをするからといって、必ずしも上手であるとは限りません。

□ 25 □ 26 □ doesn't necessarily mean I'm good at it.

- ① just            ② I            ③ play tennis   ④ can            ⑤ because

問4 パスポートを忘れたことに気づいたのは、空港に着いてからでした。

It □ 27 □ 28 □ the airport that I realized I forgot my passport.

- ① I            ② at            ③ arrived       ④ wasn't       ⑤ until

問5 たまには公園を散歩してストレス発散したいですね。

I like to walk in the park □ 29 □ 30 □ to relieve stress.

- ① every       ② a            ③ once       ④ while       ⑤ in

5

次の文章を読み、問い(問1～問6)に答えよ。なお、\*のついた単語には注がつけてある。

#### The Invention of Basketball

Basketball is one of the most popular sports that exists today, with millions of players worldwide from \*all walks of life. But have you ever stopped to consider why it was created? Or where it came from? When it was invented, there were already a great number of popular sports for people to play such as soccer, baseball, golf, tennis and more. With all of these sports already available, why was basketball even created?

The story of basketball began in Springfield, Massachusetts, in the north-eastern part of the United States. One cold winter at a YMCA training school, a Canadian-American gym teacher had a big problem on his hands. He had a class full of athletic, energetic teenage boys, all stuck inside the gymnasium, and bored. The students were all athletes of some kind, a mix of baseball, football and soccer players, and they needed a way to keep themselves <sup>(a)</sup>in shape in the off-season. As the old saying goes, "<sup>(b)</sup>necessity is the mother of invention," and so it was for this gym teacher: James Naismith.

Naismith spent two weeks coming up with ideas for a new game that would <sup>(c)</sup>solve his problem. He needed his new game to be indoors, since the winters in Massachusetts were so cold. ( A ), that meant that the students would be playing on a hard, wooden or concrete surface. In such a circumstance, rough and violent games such as football would cause too many injuries, so his new game could not allow things such as tripping or tackling. That said, the game needed to provide enough exercise for the students to stay in shape, too. It was

difficult to find the perfect balance of exercise and safety, but eventually, Naismith came up with an idea.

In his youth, he used to play a game called “duck on a rock”, which involved throwing rocks into empty cans and bottles. Using this idea as a <sup>(d)</sup>base, he molded it into a game more suitable for grown teenagers. He found a soccer ball to use in place of a rock, and since a soccer ball would not fit into a tin can, he asked the \*janitor if he had any large boxes. What the janitor brought back though, were not boxes, but peach baskets! Naismith <sup>(e)</sup>nailed the peach baskets to the walls of the gymnasium and explained the rules to his students. From there, the first ever game of “basketball” was played.

Over time, Naismith refined the rules and made other changes, which resulted in the game that we all know and love today. For example, originally the peach baskets did not have holes in the bottom, so the janitor had to get a ladder to retrieve the ball every time someone scored, which as you can imagine was terribly inconvenient! Baskets with holes were introduced to fix that. Another change to the game imposed rules for how the ball may be handled, and penalties for breaking the rules. And yet a third change was the addition of dribbling; in his original version, players didn't need to dribble! Eventually Naismith had a list of 13 rules which he wrote down and <sup>(f)</sup>distributed to other schools and sports clubs. The game rapidly gained popularity as it spread through America in the 1890's, leading to the founding of the \*NCAA and the \*NBA.

So now you know the origin of this wonderful pastime. The next time you find yourself holding that orange rubber ball in front of a hoop— throwing it gracefully through the air and hearing that satisfying “\*swish”; give a smile and a nod to James Naismith, the man behind the peach basket.

Note: all walks of life = 様々な、janitor = 小使い・掃除人、NCAA = 全米大学体育協会  
NBA = 全米バスケットボール協会  
swish = バスケットボールが完璧にネットを通過するときに出るヒュッという音

問 1 下線部の (a), (c), (e), (f) の意味に最も近いものをそれぞれ①～④から一つずつ選び、番号で答えよ。

- |              |            |                  |    |
|--------------|------------|------------------|----|
| (a) in shape | ① rounded  | ③ physically fit | 31 |
|              | ② handsome | ④ positive       |    |





問6 文中<sub>(b)</sub>“necessity is the mother of invention”に最も近い意味を①～④の中から選びなさい。

39

- ① Everyone needs a mother to make things.
- ② Necessity is something that we can make.
- ③ The inventions our mother makes are useful.
- ④ We usually invent things because we need them.

## 3. 数学

※数学の問題は、全4ページです。

# 数 学

1 以下の各問いに答えよ。

1)  $(x^2 + x + 1)^2$  の式を展開すると、 $x^4 + \boxed{\text{ア}} x^3 + \boxed{\text{イ}} x^2 + \boxed{\text{ウ}} x + \boxed{\text{エ}}$  となる。

2)  $x = \frac{3 - \sqrt{6}}{3 + \sqrt{6}}, y = \frac{3 + \sqrt{6}}{3 - \sqrt{6}}$  のとき、 $x^2 + y^2 = \boxed{\text{オカ}}$  となる。

3) **SCIENCE** の 7 つの文字を横一列に並べるとき、その並べ方は  $\boxed{\text{キクケコ}}$  通りある。

4) 次のデータは、1年A組の学生10人、1年B組の学生10人の英語の点数を調べたものである。

① A組の学生の中央値は  $\boxed{\text{サシ}}$  であり、B組の平均値は  $\boxed{\text{スセ}}$  である。

② 1年生全体の点数から箱ひげ図を  $\boxed{\text{記述式解答用紙}}$  に作図せよ。

	A組	B組
1	22	35
2	39	28
3	25	33
4	34	22
5	18	19
6	31	20
7	28	45
8	43	49
9	33	41
10	41	18

2

1 から 30 までの番号が書かれた 30 枚のカードがある。このとき、以下の値を求めよ。

1) 1 枚のカードを引くとき、その番号が 14 以下である確率は、 $\frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イウ}}}$  である。

2) 1 枚のカードを引くとき、その番号が 3 または 5 で割り切れる確率は、 $\frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オカ}}}$  である。

3) 1 枚のカードを引くとき、その番号が 3 の倍数でも 4 の倍数でもない確率は、 $\frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}}$  である。

4) 2 枚のカードを同時に引くとき、番号の和が 4 の倍数である確率は、 $\frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コサ}}}$  である。

5) 3 枚のカードを同時に引くとき、全てのカードの番号が 4 の倍数である確率は、

$\frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{スセソ}}}$  である。

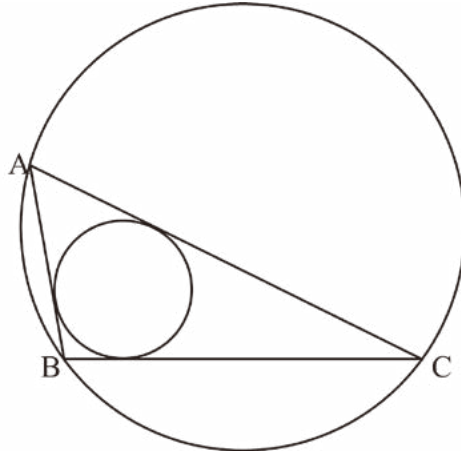
**3**

$a$  を実数の定数とし、 $x$  の2次方程式  $x^2 - ax - 2a + 1 = 0$  を方程式①とする。このとき、以下の問いに答えよ。

- 1) 方程式①の解の1つが  $x = 3$  のとき、 $a = \boxed{\text{ア}}$  である。  
また、方程式①が重解をもつとき、 $a = -\boxed{\text{イ}} \pm \boxed{\text{ウ}}\sqrt{\boxed{\text{エ}}}$  である。
- 2) 方程式①が正の解と負の解を1つずつもつような  $a$  の値の範囲は、 $a > \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}$  である。
- 3) 方程式①が実数解をもち、それらが  $-1 < x < 1$  の範囲にのみ存在するような  $a$  の値の範囲は、 $\boxed{\text{キク}} + \boxed{\text{ケ}}\sqrt{\boxed{\text{コ}}} \leq a < \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}$  である。
- 4) 方程式①が  $-1 < x < 1$  の範囲に少なくとも1つの実数解をもつような  $a$  の値の範囲は、 $\boxed{\text{スセ}} + \boxed{\text{ソ}}\sqrt{\boxed{\text{タ}}} \leq a < \boxed{\text{チ}}$  である。

4

図のように△ABCが与えられ、その外接円の半径が5、内接円の半径が1であるとする。  
BC = 8, AC > AB, ∠BACは鋭角とするとき、以下の問いに答えよ。



1)  $\sin \angle BAC = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}$  であり、したがって△ABCの面積は  $\frac{\text{ウ}}{\text{エ}} AC \times AB$  と表される。

2) 一方、内接円の半径が1であることから、△ABCの面積は  $\text{オ} + \frac{AC + AB}{\text{カ}}$  と表される。

3) 余弦定理より

$$8^2 = AC^2 + AB^2 - \frac{\text{キ}}{\text{ク}} AC \times AB = (AC + AB)^2 - \frac{\text{ケコ}}{\text{サ}} AC \times AB$$

と表される。

4) 1), 2) の結果から  $\frac{\text{ケコ}}{\text{サ}} AC \times AB = \text{シス} + \text{セ} (AC + AB)$  と表され、

これを3) に代入することにより、 $AC + AB = \text{ソタ}$  が得られる。